

2011年3月7日
株式会社エイチアイ
(コード 3846 JASDAQ)

**エイチアイ、ドコモのAndroid™ホームアプリケーション「ドコモメニュー」の開発に協力
エイチアイのスケラブルフォント描画エンジン“ハイグリフ”が採用**
－3月6日発売の「Optimus chat L-04C」にドコモメニューが初搭載－

株式会社エイチアイ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長兼CEO:川端一生、以下、エイチアイ)は、使いやすさを追求したドコモの Android スマートフォン向けホームアプリケーション「ドコモメニュー」の開発に協力し、本アプリケーションに自社のスケラブルフォント描画エンジン「ハイグリフ(Higlyph®)」が採用されたことを、本日発表いたします。

なお、ドコモメニューは「Optimus chat L-04C」にプリインストールアプリケーションとして初搭載され、2011年3月6日に発売開始されました。



ドコモメニューは、初めてAndroidスマートフォンを利用するユーザーが、従来のiモード®端末(以下、従来端末)を使うような操作感で気軽に使い始められるユーザーインターフェース(UI)をコンセプトに開発されたアプリケーションです。

ドコモメニューと、これまでのAndroidホームアプリケーションの大きな違いとして、従来端末ではハードキーに割り当てられていた機能がホーム画面のアイコンとして配置され、“メニュー”アイコンを開くと従来端末のメニュー構成をそのまま踏襲したメニュー画面が表示されます。そのメニュー中の各アイコンを選択することでアプリケーションがグループ分けされた一覧画面に遷移し、目的の機能が探しやすくなっています。そのため、スマートフォンを初めて利用するユーザーでも操作に迷うことなく手軽に使用することができます。



従来端末のハードキー機能をアイコン化

従来端末を踏襲したメニュー画面

アプリケーションがグループ化

エイチアイは、今回のコンセプトの実現に向け、Android の標準機能とエイチアイの技術力を集結することで、これまでの Android ホームアプリケーションには無かったユーザビリティの高い UI の実現に貢献しています。

中でもフォントについては、Android の標準機能では限界のあった表現力や視認性の向上などを、エイチアイのフォント描画エンジン「ハイグリフ」の導入によって克服し、高品質なフォント表現を実現することができました。

ハイグリフは、プラットフォームを問わずあらゆる組込み環境で高速に動作し、グラデーションやドロップシャドウなどの多彩なエフェクト機能を搭載した、スケーラブルフォント描画エンジンです。Android で提供されているフォント描画機能に比べて、柔軟なエフェクト機能を豊富に備えているため、思い通りのフォント表現を容易に実現することができます。

ドコモメニュー開発では、ハイグリフの採用により、企画通りの画面デザインを実現する際の開発負担を軽減し、効率よく開発を進めることができました。

エイチアイは今後も、パートナーと協力し、Android 向けのアプリケーション開発に積極的に取り組んでまいります。

- *「Android」は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- *「i モード」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- * Highlyph 、 MascotCapsule は、エイチアイの日本における登録商標です。
- *その他の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。